

特別障害者手当認定診断書(心臓疾患用)				
① 氏名	<small>(ふりがな)</small>	男・女	② 生年月日	昭和 平成 令和 年 月 日
③ 住所			④ 障害の原因となつた傷病名	
⑤ ④のため初めて医師の診断を受けた日	昭和 平成 令和 年 月 日		⑥ 傷病発生年月日	昭和 平成 令和 年 月 日
⑦ 障害が永続すると判定された日	昭和 平成 令和 年 月 日	推定 確認	⑧ 将来再認定の要	有 (年後) ・ 無
現 症	⑨ 臨床所見 (1) 動悸 (有 ・ 無) (2) 息切れ (有 ・ 無) (3) 呼吸困難 (有 ・ 無) (4) 胸痛 (有 ・ 無) (5) 血痰 (有 ・ 無) (6) チアノーゼ (有 ・ 無) (7) 浮腫 (有 ・ 無) (8) 血圧 (最高 最低) (9) 心拍数 () (10) 脈拍数 () (11) 心音 () (12) 心臓ペースメーカー装置 (有 (昭和 平成 令和 年 月 装着) ・ 無) (13) 人工弁装着 (有 (昭和 平成 令和 年 月 装着) ・ 無) (14) その他の臨床所見		⑩ 活動能力の程度 (1) 普通の活動でも心不全症状又は狭心症症状が起こらないもの (2) 家庭での普通の活動では何でもないが、それ以上の活動では心不全症状又は狭心症症状が起こるもの (3) 家庭内での極めて温和な活動では何でもないが、それ以上の活動では心不全症状又は狭心症症状が起こるもの (4) 自己の身の動作でも心不全症状又は狭心症症状が起こるもの (5) 安静時でも心不全症状又は狭心症症状が起こるもの	
	⑩ X線・心電図所見 (1) 陳旧性心筋梗塞 (有 ・ 無) (2) 脚ブロック (有 ・ 無) (3) 完全房室ブロック (有 ・ 無) (4) 不完全房室ブロック (有 第 度 ・ 無) (5) 心房細動(粗動) (有 ・ 無) 心拍数に対する脈拍数の欠損 (/ 分) (6) STの低下 (有 mV ・ 無) (7) 第I誘導、第II誘導及び胸部誘導(ただし、V ₁ を除く。)のいずれかのT波の逆転 (有 ・ 無)		年 月 日撮影  心胸比 %	
⑫ 安静を要する程度 1. 絶対安静 2. ベッド上の安静 3. 必要時のみ室内歩行(30分以内) 4. 室内歩行はよい(1時間以内)		5. 一定時間内の屋外歩行はよい(1.5時間以内) 6. 健康な人の2分の1程度の労働はよい 7. 軽労働はよいが重労働は禁ずる。ただし、休憩時間を多くとる。 8. 疲れない程度の普通の生活		
⑬ 備考				
上記のとおり診断します。 令和 年 月 日 病院又は診療所の名称 所在地 診療担当科名 医師氏名				

◎ 裏面の注意をよく読んでから記入して下さい。障害者の障害の程度及び障害の認定に無関係な欄は記入する必要がありません。

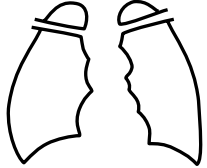
◎ 字は楷書ではっきりと書いて下さい。

(裏面)

注意

- 1 この診断書は、特別障害者手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は、障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなる場合がありますので、詳しく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けてそれに記入してください。
- 3 ⑤の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく、障害者が障害の原因となった傷病について初めて医師の診断を受けた日を記入してください。
前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申し立てによって記入してください。また、それが不明の場合には、その旨を記入してください。

特別障害者手当認定診断書(結核及び換気機能障害用)

① 氏名 (ふりがな)		男・女	② 生年月日	明治 大正 昭和 平成 令和	年	月	日		
③ 住所		④ 障害の原因となつた傷病名							
⑤ ④のためはじめて医師の診断を受けた日	昭和 平成 令和	年	月	日	⑥ 傷病発生年月日	昭和 平成 令和	年	月	日
⑦ 障害が永続すると判定された日	昭和 平成 令和	年	月	日	推定 確認	⑧ 将来再認定の要	有 (年後) ・ 無		
⑨ 身体計測 身長 cm : 体重 kg		⑩ 胸部X線所見		⑬ 安静を要する程度					
ア. 胸膜癒着 なし・軽・中・高		イ. 気腫化 なし・軽・中・高		1度 絶対安静					
ウ. 線維化 なし・軽・中・高		エ. 不透明肺 なし・軽・中・高		2度 ベット上の安静					
オ. 胸廊変形 なし・軽・中・高		カ. 心縦隔の変形 なし・軽・中・高		3度 必要時のみ室内歩行(30分以内)					
 撮影 年 月 日		⑭ 動脈血ガス分析値(令和 年 月 日)							
		ア. 動脈血O ₂ 分圧 _____ mmHg							
⑪ 活動能力の程度		イ. 動脈血CO ₂ 分圧 _____ mmHg							
ア. 激しい運動をした時だけ息切れがある。		⑮ 現在までの治療内容等							
イ. 平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。		⑯ その他の障害又は病状臨床所見							
ウ. 息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まる。									
エ. 平坦な道を約100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。									
オ. 息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。									
⑫ 換気機能(令和 年 月 日)									
ア. 肺活量実測値(VC) _____ ml									
イ. 予測肺活量 _____ ml									
ウ. 努力性肺活量(FVC) _____ ml									
エ. 1秒量(FEV1.0) _____									
オ. 努力性肺活量1秒率(FEV1%) _____ エ/ウ×100									
カ. 予測肺活量1秒率 _____ エ/イ×100									
⑰ 備考									
上記のとおり診断します。 令和 年 月 日 病院又は診療所の名称 所在地 診療担当科名 医師氏名									

◎裏面の注意をよく読んでから記入して下さい。障害者の障害の程度及び状態の認定に無関係な欄は記入する必要がありません。

◎字は楷書ではっきりと書いて下さい。

注意

- 1 この診断書は、特別障害者手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は、障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定がおそくなることがありますので、くわしく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○でかこんでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはりつけてそれに記入してください。
- 3 ⑤の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく、障害者が障害の原因となった傷病についてはじめて医師の診断を受けた日を記入してください。
前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申し立てによって記入してください。また、それが不明の場合には、その旨を記入してください。
- 4 ⑩の欄には、添付されたX線写真について、その所見を記入してください。
- 5 ⑮の欄には、現在までの治療の内容、期間、経過などを記入してください。
- 6 この診断書の外に胸部X線写真を添えてください。

特別障害者手当認定診断書(腎臓疾患用)

① (ふりがな) 氏名	-----	男・女	② 生年月日	昭和 平成 令和	年	月	日		
② 住 所			④ 疾病の原因と なった傷病名						
⑤ ④のため初めて医師の 診断を受けた日	昭和 平成 令和	年	月	日	⑥ 傷病発生 年月日	昭和 平成 令和	年	月	日
⑦ 障害が永続すると判定 された日	昭和 平成 令和	年	月	日	推定 確認	⑧ 将来再認定 の要	有(年後) ・ 無		

⑨ 腎 臓 疾 患 (令和 年 月 日現症)

1 臨床所見		(6) 検査成績	
(1) 自覚症状 悪心・嘔吐(無・有・著) 食欲不振(無・有・著) 頭痛(無・有・著) 呼吸困難(無・有・著)	(2) 他覚所見 浮腫(無・有・著) 貧血(無・有・著) アシドーシス(無・有・著) 腎不全に基づく 神経症状(無・有・著) 視力障害(無・有・著)	検査日	
(3) 尿毒症性心包炎 (無・有)	(4) 尿毒症性出血傾向 (無・有)	(5) 尿毒症性中枢神経症状 (無・有)	
2 腎生検 無・有 検査年月日(令和 年 月 日) 所見		検査項目	
3 人工透析療法		検査項目	
(1) 人工透析療法の実施の有無 無・有 (血液透析・腹膜透析・血液濾過)	(2) 人工透析開始日 (令和 年 月 日)	1日尿蛋白量 g/日	
(3) 人工透析(腹膜透析除く。)実施状況 回数・回/週、1回 時間	(4) 人工透析導入後の臨床経過	尿蛋白/尿クレアチニン比 g/gCr	
(5) 長期透析による合併症 無・有 所見		尿蛋白 (定性)	
		赤血球数 ×10 ⁴ /μl	
		ヘモグロビン g/dl	
		白血球数 /μl	
		血小板数 ×10 ⁴ /μl	
		血清総蛋白 g/dl	
		血清アルブミン g/dl	
		BCG法・BCP法・改良型BCP法	
		総コレステロール mg/dl	
		血液尿素窒素(BUN) mg/dl	
		血清クレアチニン mg/dl	
		eGFR ml/分	
		1日尿量 ml/日	
		内因性クレアチン・クリアランス ml/分	
		動脈血(HCO ₃) mEq/l	

4 その他の所見

(1) 腎移植 無・有 (有の場合は移植年月日(令和 年 月 日))
経過

(2) その他

⑩ 活動能力の程度(該当するものどれか一つを選んで○で囲んでください。)

1 普通の生活については著しく制限されることがないもの

2 家庭内での普通の生活又は社会での極めて温和な活動には支障がないが、それ以上の活動は著しく制限されるもの

3 家庭内での極めて温和な活動には支障がないが、それ以上の活動は著しく制限されるもの

4 自己の身の周りの日常生活活動を著しく制限されるもの

⑪ 安静を要する程度

1 絶対安静	5 一定時間内の屋外歩行はよい(1.5時間以内)
2 ベッド上の安静	6 健康な人の2分の1程度の労働はよい
3 必要時のみ室内歩行(30分以内)	7 軽労働はよいが重労働は禁ずる。ただし、休憩時間を多くとる。
4 室内歩行はよい(1時間以内)	8 疲れない程度の普通の生活

⑫ 備 考

上記のとおり、診断します。

令和 年 月 日

病院又は診療所の名称

所在地

診療担当科名 医師氏名

◎ 裏面の注意をよく読んでから記入してください。障害者の障害の程度及び障害の認定に無関係な欄は記入する必要がありません。

◎ 字は楷書ではっきりと書いてください。

(裏面)

注 意

- 1 この診断書は、特別障害者手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点があると認定が遅くなる場合がありますので、詳しく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けてそれに記入してください。
- 3 ⑤の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく障害者が障害の原因となった傷病については初めて医師の診断を受けた日を記入してください。前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申立てによって記入してください。
また、それが不明な場合には、その旨を記入してください。
- 4 ⑨の欄の「1 臨床所見」の検査成績は、過去3か月間において、症状を最もよく表している検査成績をそれぞれ記入してください。なお、人工透析療法を実施している人の腎機能検査成績は当該療法の導入後であって、毎回の透析実施前の検査成績を記入してください。
- 5 ⑨の欄の「1 臨床所見」の検査成績の「血清アルブミン」については、BCG法、BCP法又は改良型BCP法のいずれかに○を付してください。

特別障害者手当認定診断書 (肝臓 疾患及びその他の疾患用)
血液

① (ふりがな) 氏名		男・女	② 生 年 月 日	昭和 平成 令和	年 月 日
③ 住 所			④ 障害の原因となつた傷病名		
⑤ ④のためはじめて医師の診断を受けた日	昭和 平成 令和	年 月 日	⑥ 傷病発生日	昭和 平成 令和	年 月 日
⑦ 障害が永続すると判定された日	昭和 平成 令和	年 月 日	⑧ 将来再認定の要	有 (年後) ・ 無	

障 害 の 状 態

⑨ 肝 疾 患 (令 和 年 月 日 現 症)

<p>1 臨床所見</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 自覚症状</td> <td>(2) 他覚所見</td> </tr> <tr> <td>全身倦怠感(無・有・著)</td> <td>肝萎縮(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td>発熱(無・有・著)</td> <td>脾腫大(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td>食欲不振(無・有・著)</td> <td>浮腫(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td>悪心・嘔吐(無・有・著)</td> <td>腹水(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td>皮膚そう痒感(無・有・著)</td> <td>有(難治性)</td> </tr> <tr> <td>有痛性筋痙攣(無・有・著)</td> <td>黄疸(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td>吐血・下血(無・有・著)</td> <td>腹整静脈怒張(無・有・著)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>肝性脳症(無・有・(度))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>出血傾向(無・有・著)</td> </tr> </table> <p>2 Child-Pughによるgrade A(5・6) B(7・8・9) C(10・11・12以上)</p> <p>3 肝生検 無・有 検査年月日(令和 年 月 日) 所見 グレード() ステージ()</p> <p>4 食道・胃などの静脈瘤</p> <p>(1) 無・有 検査年月日(令和 年 月 日)</p> <p>(2) 吐血・下血の既往 無・有 (回)</p> <p>(3) 治療歴 無・有 (回)</p> <p>5 肝腫瘍治療歴 無・有</p> <p>・手術 回 ・局所療法 回 ・動脈塞栓術 回</p> <p>・放射線療法 回 ・化学療法 回</p> <p>6 特発性細菌性腹膜炎その他肝硬変症に付随する病態の治療歴 所見</p> <p>7 治療内容</p> <p>(1) 利尿剤(無・有) (4) アルブミン・血漿製剤(無・有)</p> <p>(2) 特殊アミノ酸製剤(無・有)(5) 血小板輸血(無・有)</p> <p>(3) 抗ウイルス療法(無・有) (6) その他 具体的内容</p>	(1) 自覚症状	(2) 他覚所見	全身倦怠感(無・有・著)	肝萎縮(無・有・著)	発熱(無・有・著)	脾腫大(無・有・著)	食欲不振(無・有・著)	浮腫(無・有・著)	悪心・嘔吐(無・有・著)	腹水(無・有・著)	皮膚そう痒感(無・有・著)	有(難治性)	有痛性筋痙攣(無・有・著)	黄疸(無・有・著)	吐血・下血(無・有・著)	腹整静脈怒張(無・有・著)		肝性脳症(無・有・(度))		出血傾向(無・有・著)	<p>(3) 検査成績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検査日</th> <th>施設</th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <th>検査項目</th> <th>基準値</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AST(GOT) IU/L</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ALT(GPT) IU/L</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>γ-GPT IU/L</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>血清総ビリルビン mg/dL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アルカリホスファターゼ IU/L</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>血清総蛋白 g/dL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>血清アルブミン g/dL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BCG法・BCP法 ・改良型BCP法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A/G比</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>血小板数 ×10⁴/uL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロトロンビン時間 %</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>総コレステロール mg/dL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>血中アンモニア ug/dL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>AFP ng/mL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>PIVKA-II mAU/mL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>8 その他の所見</p> <p>(1) 肝移植 無・有 (有の場合は移植年月日 (令和 年 月 日)) 経過</p> <p>(2) その他(超音波・CT・MRI検査等)(令和 年 月 日)</p>	検査日	施設			検査項目	基準値			AST(GOT) IU/L				ALT(GPT) IU/L				γ-GPT IU/L				血清総ビリルビン mg/dL				アルカリホスファターゼ IU/L				血清総蛋白 g/dL				血清アルブミン g/dL				BCG法・BCP法 ・改良型BCP法				A/G比				血小板数 ×10 ⁴ /uL				プロトロンビン時間 %				総コレステロール mg/dL				血中アンモニア ug/dL				AFP ng/mL				PIVKA-II mAU/mL			
(1) 自覚症状	(2) 他覚所見																																																																																								
全身倦怠感(無・有・著)	肝萎縮(無・有・著)																																																																																								
発熱(無・有・著)	脾腫大(無・有・著)																																																																																								
食欲不振(無・有・著)	浮腫(無・有・著)																																																																																								
悪心・嘔吐(無・有・著)	腹水(無・有・著)																																																																																								
皮膚そう痒感(無・有・著)	有(難治性)																																																																																								
有痛性筋痙攣(無・有・著)	黄疸(無・有・著)																																																																																								
吐血・下血(無・有・著)	腹整静脈怒張(無・有・著)																																																																																								
	肝性脳症(無・有・(度))																																																																																								
	出血傾向(無・有・著)																																																																																								
検査日	施設																																																																																								
検査項目	基準値																																																																																								
AST(GOT) IU/L																																																																																									
ALT(GPT) IU/L																																																																																									
γ-GPT IU/L																																																																																									
血清総ビリルビン mg/dL																																																																																									
アルカリホスファターゼ IU/L																																																																																									
血清総蛋白 g/dL																																																																																									
血清アルブミン g/dL																																																																																									
BCG法・BCP法 ・改良型BCP法																																																																																									
A/G比																																																																																									
血小板数 ×10 ⁴ /uL																																																																																									
プロトロンビン時間 %																																																																																									
総コレステロール mg/dL																																																																																									
血中アンモニア ug/dL																																																																																									
AFP ng/mL																																																																																									
PIVKA-II mAU/mL																																																																																									

⑩ 血液疾患(令和 年 月 日現症)																																										
<p>1 臨床所見</p> <p>(1) 自覚症状</p> <table style="width:100%; border: none;"> <tr><td>立ちくらみ</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>易疲労感</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>動悸</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>息切れ</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>発熱</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>紫斑</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>月経過多</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>関節症状</td><td>(無・有・著)</td></tr> </table> <p>(2) 他覚所見</p> <table style="width:100%; border: none;"> <tr><td>リンパ節腫脹</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>出血傾向</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>血栓傾向</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>肝腫</td><td>(無・有・著)</td></tr> <tr><td>脾腫</td><td>(無・有・著)</td></tr> </table>	立ちくらみ	(無・有・著)	易疲労感	(無・有・著)	動悸	(無・有・著)	息切れ	(無・有・著)	発熱	(無・有・著)	紫斑	(無・有・著)	月経過多	(無・有・著)	関節症状	(無・有・著)	リンパ節腫脹	(無・有・著)	出血傾向	(無・有・著)	血栓傾向	(無・有・著)	肝腫	(無・有・著)	脾腫	(無・有・著)	<p>(3) 検査成績</p> <p>ア 末梢血液検査(令和 年 月 日)</p> <p>※アの欄は、最も適切に現在の病状が把握できる検査数値及びその日付を記入してください。</p> <table style="width:100%; border: none;"> <tr><td>ヘモグロビン濃度</td><td>() g/dL</td></tr> <tr><td>網赤血球</td><td>() 万/μL</td></tr> <tr><td>血小板</td><td>() 万/μL</td></tr> <tr><td>白血球</td><td>() /μL</td></tr> <tr><td>好中球</td><td>() /μL</td></tr> <tr><td>リンパ球</td><td>() /μL</td></tr> <tr><td>病的細胞</td><td>() %</td></tr> </table>	ヘモグロビン濃度	() g/dL	網赤血球	() 万/μL	血小板	() 万/μL	白血球	() /μL	好中球	() /μL	リンパ球	() /μL	病的細胞	() %	<p>イ その他の検査</p> <p>画像検査(検査名) (令和 年 月 日)</p> <p>所見()</p> <p>他の検査(検査名) (令和 年 月 日)</p> <p>所見</p>
立ちくらみ	(無・有・著)																																									
易疲労感	(無・有・著)																																									
動悸	(無・有・著)																																									
息切れ	(無・有・著)																																									
発熱	(無・有・著)																																									
紫斑	(無・有・著)																																									
月経過多	(無・有・著)																																									
関節症状	(無・有・著)																																									
リンパ節腫脹	(無・有・著)																																									
出血傾向	(無・有・著)																																									
血栓傾向	(無・有・著)																																									
肝腫	(無・有・著)																																									
脾腫	(無・有・著)																																									
ヘモグロビン濃度	() g/dL																																									
網赤血球	() 万/μL																																									
血小板	() 万/μL																																									
白血球	() /μL																																									
好中球	() /μL																																									
リンパ球	() /μL																																									
病的細胞	() %																																									
<p>2. 治療状況</p> <p>赤血球輸血(年・月 回) 血小板輸血(年・月 回)</p> <p>補充療法(年・月 回) 新鮮凍結血漿(年・月 回)</p>	<p>3. その他の所見</p>																																									

⑪ その他の疾患(令和 年 月 日現症)			
<p>1. 症状</p>	<p>2. 臨床検査</p>		
<p>⑫ 安静を要する程度</p> <table style="width:100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対安静 2. ベッド上の安静 3. 必要時のみ室内歩行(30分以内) 4. 室内歩行はよい(1時間以内) </td> <td style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> 5. 一定時間内の屋外歩行はよい(1.5時間以内) 6. 健康な人の2分の1程度の労働はよい 7. 軽労働はよいが重労働は禁ずる。ただし休憩時間を多くとる 8. 疲れない程度の普通の生活 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対安静 2. ベッド上の安静 3. 必要時のみ室内歩行(30分以内) 4. 室内歩行はよい(1時間以内) 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 一定時間内の屋外歩行はよい(1.5時間以内) 6. 健康な人の2分の1程度の労働はよい 7. 軽労働はよいが重労働は禁ずる。ただし休憩時間を多くとる 8. 疲れない程度の普通の生活
<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶対安静 2. ベッド上の安静 3. 必要時のみ室内歩行(30分以内) 4. 室内歩行はよい(1時間以内) 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 一定時間内の屋外歩行はよい(1.5時間以内) 6. 健康な人の2分の1程度の労働はよい 7. 軽労働はよいが重労働は禁ずる。ただし休憩時間を多くとる 8. 疲れない程度の普通の生活 		
<p>⑬ 活動能力の程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく、発病前と同等にふるまえる 2. 軽度の症状があり、肉体労働は制限を受けるが、歩行・軽労働や坐業はできる。例えば、軽い家事・事務など 3. 歩行や身のまわりのことはできるが、時に少し介助のいることもある。軽労働はできないが、日中の50%以上は起居している 4. 身のまわりのある程度のことではできるが、しばしば介助がいり、日中の50%以上は就床している 5. 身のまわりのこともできず、常に介助がいり、終日就床を必要としている 			
<p>⑭ 備考</p>			

<p>上記のとおり診断します。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日</p> <p>病院又は診療所の名称</p> <p>所在地</p> <p>診療担当科名 医師氏名</p>	
--	--

◎裏面の注意をよく読んでから記入して下さい。障害者の障害の程度及び障害の認定に無関係な欄は記入する必要がありません。

◎字は楷書ではっきりと書いて下さい。

注意

- 1 この診断書は、特別障害者手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は、障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなる場合がありますので、詳しく記入してください。
- 2 ○・×で答えられる欄は、該当するものを○で囲んでください。記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けてそれに記入してください。
- 3 ⑤の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく、障害者が障害の原因となった傷病について初めて医師の診断を受けた日を記入してください。
前に他の医師が診断している場合は、障害者本人又はその父母等の申立てによって記入してください。また、それが不明の場合には、その旨を記入してください。
- 4 肝機能の検査成績は、過去3か月間における2回の検査成績(1ヶ月以上の間隔をおくこと。)をそれぞれ記入してください。
- 5 ⑨の欄の「1 臨床所見」の検査成績の「血清アルブミン」については、BCG法、BCP法又は改良型BCP法のいずれかに○を付してください。
- 6 ⑨の欄の「2 Child-Pughによるgrade」の点数に○を付してください。
- 7 ⑨の欄の「7 治療の内容」は、⑨の欄冒頭の現症日時点の内容を記入してください。また、「具体的内容」については、(1)～(6)の治療が有る場合は、必要に応じて薬品名や(6)の内容等を記入してください。
- 8 ⑪の「その他の疾患」の欄には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害、結核及び換気機能障害、心臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び精神障害以外の疾患について記入してください。
- 9 問診による身体状態と他覚的検査結果とが一致しないような場合には、備考欄にその旨を記入してください。

特別障害者手当認定診断書（精神の障害用）							
氏 名			男・女	生 年 月 日	昭和 平成 令和	年 月 日	
住 所			障害の原因と なった傷病名				
傷 病 発 生 年 月	主な精神障害	昭和 平成 令和	年 月	合 併 症	精神障害		
	合併精神障害	昭和 平成 令和	年 月		身体障害		
	合併身体障害	昭和 平成 令和	年 月				
のため初めて医師 の診断を受けた日	昭和 平成 令和	年 月 日	将来再判定の要	有（ 年後） ・ 無			
現病歴（陳述者より聴取）		陳 述 者 の 氏 名		患者との 続 柄			
ア 発病以来の病状と経過		イ 発病以来の治療歴 （病院名） （治療期間）（入院・外来別）（病名）（主な療法）（転帰） （ア） 年 月 ～ 年 月 入・外 （イ） 年 月 ～ 年 月 入・外 （ウ） 年 月 ～ 年 月 入・外 （エ） 年 月 ～ 年 月 入・外					
これまでの発育・養 育歴等（出生から発 育の状況や教育歴を 陳述者より聴取の 上、できるだけ詳し く記入してください。）	ア 発育・養育歴		イ 教育歴 乳児期 不就学 ・ 就学猶予 小学校（ 普通学級 ・ 特別支援学級 ・ 特別支援学校 ） 中学校（ 普通学級 ・ 特別支援学級 ・ 特別支援学校 ） 高 校（ 普通学級 ・ 特別支援学校 ） その他				
障害の状態（令和 年 月 日現症）							
現 症	現在の病状又は状態像			左記の状態について、その程度・症状・処方等を具体的に記載してください。			
	知能障害等	1 知的障害 知能指数又は発達指数（IQ・DQ） テスト方式（ ） テスト不能 判定（最重度、重度、中度、軽度） 判定年月日（令和 年 月 日） 2 高次脳機能障害 ア 失行 イ 失認 ウ 記憶障害 エ 注意障害 オ 遂行機能障害 カ 社会的行動障害 3 学習障害 ア 読み イ 書き ウ 算数 エ その他（ ） 4 その他（ ）					
	発達障害関連症状	1 相互的な社会関係の質的障害 2 言語コミュニケーションの障害 3 限定した常同的で反復的な関心と行動 4 その他（ ）					
	意識障害・てんかん	1 意識混濁 2（夜間）せん妄 3 もろろ 4 錯乱 5 てんかん発作 6 不機嫌症 7 その他（ ） ・ てんかん発作のタイプ（ ） ・ てんかん発作の頻度（年間・月・週） 回数程度					
	精神症状	1 幻覚 2 妄想 3 自閉 4 無為 5 感情の平板化 6 不安 7 恐怖 8 強迫行為 9 思考障害 10 心気症 11 中毒嗜癖 12 うつ状態 13 そう状態 14 その他（ ）					
	問題行動 及び習癖	1 興奮 2 暴行 3 多動 4 拒絶 5 自殺企画 6 自傷 7 破衣 8 不潔 9 放火・弄火 10 器物破壊 11 徘徊・浮浪 12 盗み 13 性的逸脱行動 14 排泄の問題（尿失禁、便失禁、便こね、その他） 15 食事の問題（拒食、異食、大食、小食、偏食、その他） 16 その他（ ）					
性格特徴							

(裏面)

現 症	日常生活能力の程度 (必ず記入してください)	1 食事 (・ひとりできる ・介助があればできる ・できない) 2 用便(月経)の始末 (・ひとりできる ・介助があればできる ・できない) 3 衣服の着脱 (・ひとりできる ・介助があればできる ・できない) 4 簡単な買物 (・ひとりできる ・介助があればできる ・できない) 5 家族との会話 (・通じる ・少しは通じる ・通じない) 6 家族以外の者との会話 (・通じる ・少しは通じる ・通じない) 7 刃物・火の危険 (・わかる ・少しはわかる ・わからない) 8 戸外での危険(交通事故)から身を守る (・守ることができる ・不十分ながら守ることができる ・守ることができない)
		上記の内容を具体的に記載して下さい。
	要 注 意 度	1 常に嚴重な注意を必要とする 2 随時一応の注意を必要とする 3 ほとんど必要ない
	備 考	

上記のとおり、診断します。
令和 年 月 日
病院又は診療所の名称
所在地
診療担当科名
医師氏名

裏面の注意をよく読んでから記入してください。障害者の障害の程度及び状態の認定に無関係な欄は記入する必要はありません。
字は楷書ではっきりと書いてください。

記入上の注意

- この診断書は、特別障害者手当の受給資格を認定するための資料の一つです。
この診断書は障害者の障害の状態を証明するために使用されますが、記入事項に不明な点がありますと認定が遅くなる場合がありますので、できるだけ詳しく記入してください。
- ・×で答えられる欄は、該当するものを で囲んでください。また、記入する欄()は具体的に詳しく記入してください。
なお、記入しきれない場合は、別に紙片をはり付けてそれに記入してください。
- の欄は、この診断書を作成するための診断日ではなく、障害者が障害の原因となった傷病については初めて医師の診断を受けた日を記入してください。
前に他の医師が診断している場合は、その父母等の申立てによって記入してください。
また、それが不明な場合には、その旨を記入してください。
- から までの欄には、それぞれの欄の症状又は行動について該当するものを で囲んでください。
- 知的障害の場合は、知能指数又は発達指数及び検査方式を の欄に記入してください。
- の欄は、 から までの欄に記載する注意を要する症状の有無、程度及び頻度に応じて該当するものを で囲んでください。
- 診断医が、「精神保健指定医」である場合には、氏名の上にその旨を記載してください。また、診断医が精神保健福祉センター、児童相談所又は知的障害者更生相談所の医師である場合には、「病院又は診療所」のところに、その精神保健福祉センター、児童相談所又は知的障害者更生相談所の名称を記入するだけで、「所在地」、「診療担当科名」は記入する必要はありません。